



第194期 中間業績のご報告

(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

証券コード：7951

ハイブリッドピアノ AvantGrand「N3X」



カジュアル管楽器 Venova™



RMX ドライバー



ヤマハ株式会社

株主の皆さまへ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの第194期中間期(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の連結業績の概況についてご報告申し上げます。

当中間期の連結売上高は、前年同期に対し106億円増加の2,098億円(前年同期比5.3%増加)となりました。

損益については、為替によるマイナス影響等をコストダウン等で吸収しきれず、営業利益は239億27百万円(同2.9%減少)、経常利益は247億27百万円(同1.0%増加)となりました。親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期に繰延税金資産136億円を計上していたことから、前年同期比27.8%減少の196億37百万円となりました。

中間配当につきましては、11月1日開催の取締役会において、一株につき28円とすることを決定いたしました。

昨年4月からスタートした中期経営計画「NEXT STAGE 12」では、「『なくてはならない、個性輝く企業』になる」を当社が中長期的に目指す姿として掲げ、「ブランド力の強化と、その成果としての利益率の向上」のため、①楽器事業のさらなる収益力向上 ②音響機器事業の成長 ③第3の柱となる部品・装置事業の基盤確立に取り組んでおります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



平成29年12月
代表執行役社長

中田卓也

中期経営計画「NEXT STAGE 12」4つの重点戦略の進捗

個性際立つ商品の開発

- 20年ぶりに鍵盤アクション機構を大幅刷新した電子ピアノ「クラビノーバ CLPシリーズ」や、2017年度グッドデザイン大賞を獲得した今までにないカジュアル管楽器「ヴェノーヴァ™」などを発売しました。
- 研究開発の新拠点「イノベーションセンター」を第195期の竣工に向けて進めており、完成後は約2,500人の技術者を本社地区に集結し、開発シナジー創出を加速します。

持続的なコスト低減

- 電子部品を中心とした原材料の価格上昇により調達コスト低減にやや遅れがみられるものの、3年間で80億円(ネット)のコスト低減を目指し、製造原価の低減及び、間接業務の生産性向上に取り組んでおります。
- インドの新工場を含め、生産拠点の整備はほぼ計画通りに進捗しております。

お客様の拡大

- 販売網拡充や地域ニーズを踏まえた音楽普及活動を継続、推進しました。また、法人向けの顧客サポート体制・拠点拡充等を通じて、お客様とのつながりを強め、広げております。
- マーケティング専門部署を新設し、デジタルマーケティングを強化するなど、より多くのお客様にヤマハファンになっていただくための情報発信を進めております。

グローバル事業運営の基盤強化

- グループ人材の国を超えた活躍を推進するため、グループ人材マネジメントの仕組みと教育体系の整備に取り組んでおります。
- ITセキュリティ強化、効率的な物流システム等、スタッフの機能をグローバルに最適化し、グローバル事業運営を支える基盤の強化、業務の効率化を計画に沿って進めております。

第194期(平成30年3月期)通期業績の見通しについて

第194期通期連結業績の見通しは、売上高4,320億円(前期比5.8%増加)、営業利益500億円(同12.9%増加)、経常利益500億円(同11.3%増加)、親会社株主に帰属する当期純利益は、570億円(同22.0%増加)としています。営業利益500億円及び親会社株主に帰属する当期純利益570億円は、過去最高益となります。また、業績予想における当下期の想定為替レートは、対USドル110円、対ユーロ125円としています。

連結業績予想

売上高 4,320億円	営業利益 500億円
経常利益 500億円	親会社株主に帰属する 当期純利益 570億円

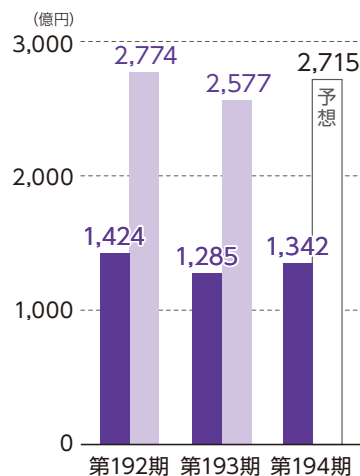
各事業の状況(連結) BUSINESS SITUATION

楽器事業

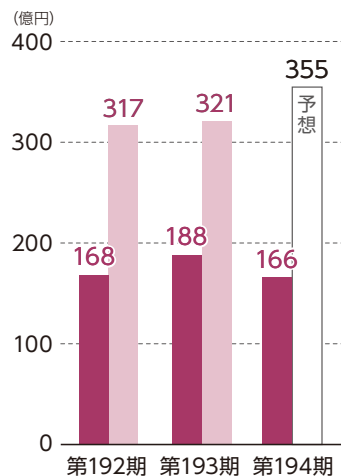
アコースティックピアノおよびデジタルピアノは、中国での2桁成長等により増収となりました。管楽器が日本および中国で販売好調となり、ギターもアジア地域で売上げを伸ばしました。



【売上高】 ■ 中間期 ■ 通期



【営業利益】 ■ 中間期 ■ 通期

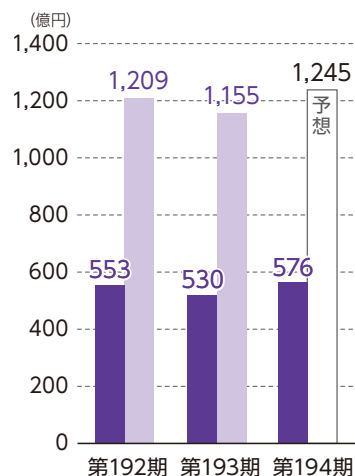


音響機器事業

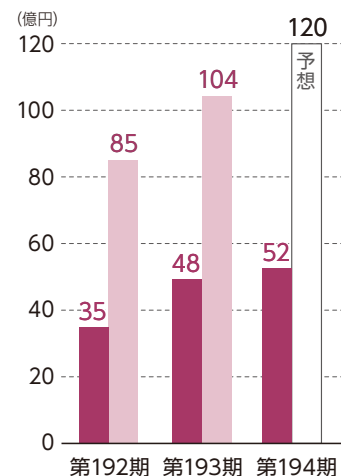
オーディオ機器が全体的に堅調に推移したほか、PA機器は中国をはじめ新興国での販売が好調でした。ICT(情報通信)機器は、ネットワーク機器等が売上げを伸ばしました。



【売上高】 ■ 中間期 ■ 通期



【営業利益】 ■ 中間期 ■ 通期



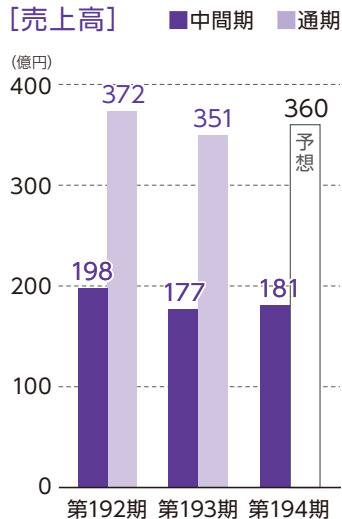
第193期より、防音事業を「楽器事業」から「音響機器事業」に変更しております。上の楽器事業及び音響機器事業のグラフは、第192期も変更後の区分方法により作成して記載しております。

その他の事業

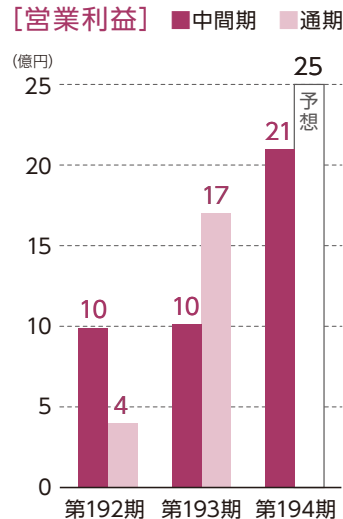
FA機器が売上げを大きく伸ばしたほか、電子部品およびゴルフ用品も好調に推移しました。



【売上高】

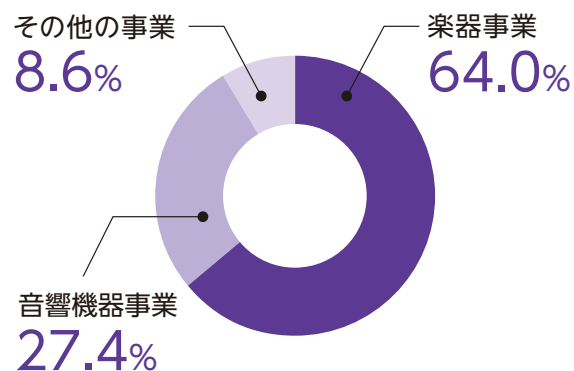


【営業利益】

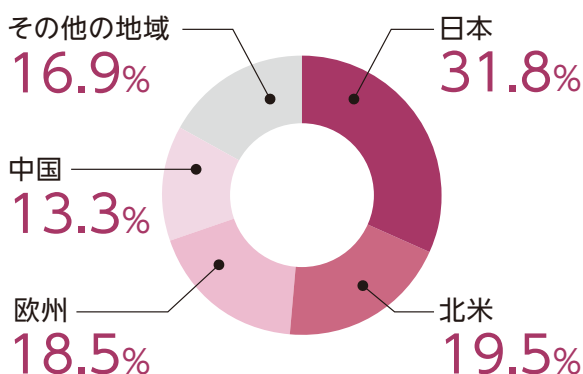


「電子部品事業」の規模が縮小したことに伴い、第193期より同事業を「その他の事業」に含めております。上のグラフは、第192期も変更後の区分方法により作成して記載しております。

事業別売上高構成比率



地域別売上高構成比率



上の2つのグラフは、当第2四半期連結累計期間の売上高に基づく構成比率です。

【四半期連結貸借対照表(要旨)】

当第2四半期連結会計期間(平成29年9月30日現在) (単位:百万円)

	当第2四半期末	前期末	
資産の部	流動資産	308,492	272,720
	固定資産	287,414	249,641
	有形固定資産	109,472	105,475
	無形固定資産	5,815	3,195
	投資その他の資産	172,126	140,970
資産合計	595,906	522,362	
負債の部	流動負債	105,342	82,565
	固定負債	80,365	72,359
	負債合計	185,708	154,924
純資産の部	株主資本	310,564	295,507
	その他の包括利益累計額	97,260	69,616
	非支配株主持分	2,373	2,314
	純資産合計	410,198	367,437
負債純資産合計	595,906	522,362	

- ◎資産は、受取手形及び売掛金並びに現金及び預金の増加等により流動資産が増加、保有有価証券の時価上昇等により固定資産が増加
- ◎負債は、短期借入金増加等により流動負債が増加、長期繰延税金負債の増加等により固定負債が増加

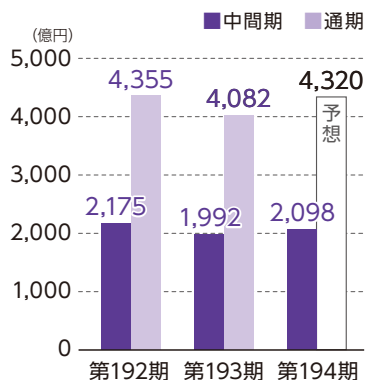
【四半期連結損益計算書(要旨)】

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から9月30日まで) (単位:百万円)

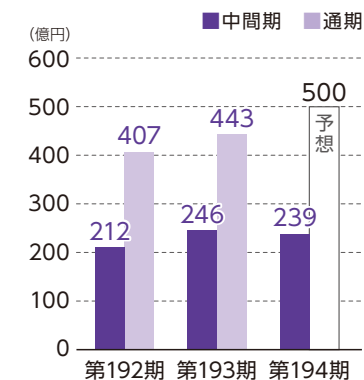
	当第2四半期累計	前第2四半期累計
売上高	209,800	199,153
売上総利益	84,088	84,136
営業利益	23,927	24,646
経常利益	24,727	24,488
税金等調整前 四半期純利益	24,269	19,283
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	19,637	27,214

- ◎売上高は、為替影響80億円もあり、前年同期比106億円増加
- ◎営業利益は、為替影響△13億円を吸収しきれず、同7億円減少
- ◎親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に繰延税金資産136億円の計上影響もあり、同76億円減少

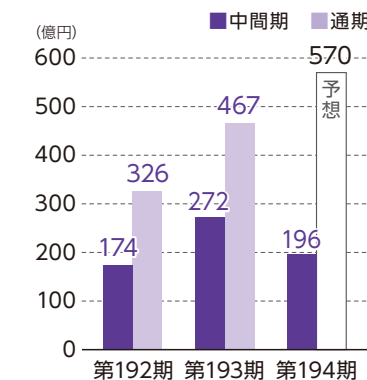
[売上高]



[営業利益]



[親会社株主に帰属する当期純利益]



Ⅰ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

当第2四半期連結累計期間(平成29年4月1日から9月30日まで)

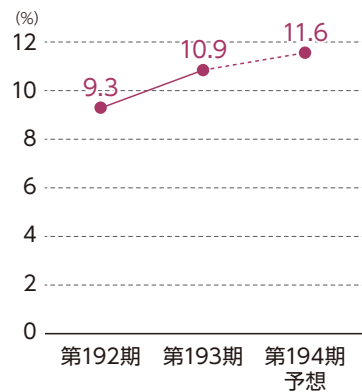
(単位:百万円)

	当第2四半期累計	前第2四半期累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,584	5,347
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,657	△6,308
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,416	12,563
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,490	△5,235
現金及び現金同等物の増加額	9,833	6,366
現金及び現金同等物の期首残高	100,669	85,018
現金及び現金同等物の四半期末残高	110,503	91,385

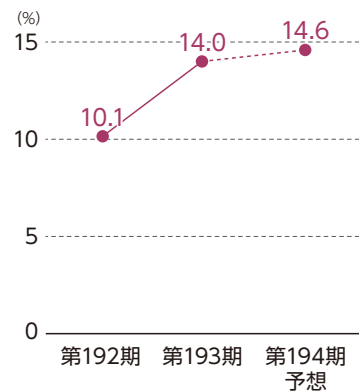
◎営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に対し季節変動による在庫増加幅が縮小したこと等により、前年同期比**42億円**収入増

◎投資活動によるキャッシュ・フローは、国内外の設備投資の増加等により、**同53億円**支出増

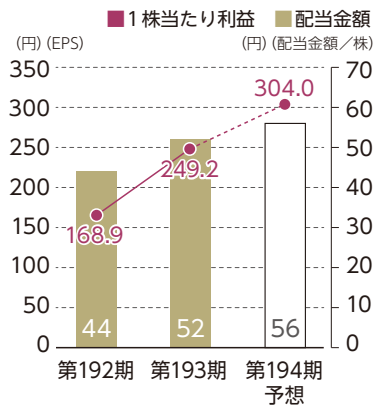
[売上高営業利益率(ROS)]



[自己資本利益率(ROE)]



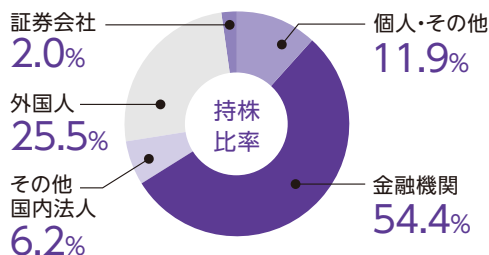
[1株当たり利益(EPS)/年間配当]



株式の状況 (平成29年9月30日現在)

発行可能株式総数	700,000,000株
発行済株式の総数	197,255,025株 (自己株式9,744,626株を含む。)
株主数	17,264名

所有者別状況



(注)「個人・その他」には自己株式が含まれております。

大株主

株主名	所有株式数 (千株)	保有割合 (対自己株式控除)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	25,995	13.86%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	16,671	8.89%
ヤマハ発動機株式会社	10,326	5.51%
三井住友海上火災保険株式会社	8,008	4.27%
株式会社静岡銀行	7,604	4.06%
住友生命保険相互会社	7,300	3.89%
株式会社みずほ銀行	7,235	3.86%
日本生命保険相互会社	5,002	2.67%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223	2,795	1.49%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,644	1.41%

(注)当社は、自己株式9,744,626株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、保有割合は所有株式数を自己株式を除いた発行済株式の総数で除しております。

役員 (平成29年9月30日現在)

取締役

取締役	中田 卓也
取締役	山 畑 聡
取締役	細 井 正人
社外取締役	柳 弘之
社外取締役	野 坂 茂
社外取締役	伊 藤 雅俊
社外取締役	箱 田 順哉
社外取締役	中 島 好美
社外取締役	福 井 琢

執行役

代表執行役社長	中田 卓也
常務執行役	川 瀬 忍
常務執行役	山 畑 聡
執行役	藤 井 茂樹
執行役	飯 塚 朗
執行役	山 口 静一
執行役	大 六 野 隆

株主メモ

事業年度	4月1日から 翌年3月31日まで	定時株主総会 期末配当の基準日	6月 3月31日
定時株主総会の 基準日	3月31日	中間配当の基準日 単元株式数	9月30日 100株

公告の方法 電子公告 [https://www.yamaha.com/ja/]

株主名簿管理人・
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

株式事務の お問い合わせ先

株式事務の内容により、証券会社または三井住友
信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株式事務の内容	①住所変更 ②配当金受取方法の変更 ③単元未満株式の買取請求	未払い配当金の 支払い
口座を開設 されている場合	口座を開設された 証券会社	三井住友信託銀行 株式会社
株式が特別口座に ある場合	三井住友信託銀行 株式会社	三井住友信託銀行 株式会社

三井住友信託銀行株式会社のお問い合わせ先

0120-782-031 平日9:00-17:00



この「中間業績のご報告」は環境にやさしい
植物油インキとFSC®森林認証紙を使用しています。

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10番1号
Tel: 053(460)2800 Fax: 053(460)2802
URL: https://www.yamaha.com/ja/